

科 目						担当教員(○主担当)			
フラワーデザイン実習Ⅲ						○林 誠☆、吉田 久美子☆、長縄 律子☆(客員教授)			
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択	分野	花き装飾
背景と目的	フローリストの仕事はクライアントの要望や予算に合わせ花束、アレンジメントはもちろんのこと、空間を花や緑で飾るディスプレイなど特別の場のトータルコーディネートが求められる。本科目では「フラワーデザイン実習Ⅰ・Ⅱ」で培った技術を基に、花の原価について知り、空間を花や緑で飾るディスプレイ技術や特別な場を花で飾る技術を身に付ける。また、ヨーロッパデザインの方を学び、アレンジメントのデザインの幅を広げて発想力を豊かにすることを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・空間を花で飾る技術を習得する。 ・花き装飾の歴史的かつ文化的行事などの知識を習得する。 ・花の原価について知る。 ・フローリストとしての発想力や応用力を習得する。 								
授業外の学習	図書室にある『フローリスト』『花時間』等を読みアイデア出しを行うこと。								
評価方法	取組姿勢(50%)、筆記試験(10%)、実技(40%)								
教科書	『フラワーデザイナーのための花の教科書』(講談社)								
参考書	『フローリスト』(誠文堂新光社)、『花時間』(株式会社KADOKURA)								
関連する資格	2級・3級フラワー装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方	デモンストレーションを参考に作品を制作します。 デザイン・コンセプトを考え作品を制作します。 グループでディスプレイを制作します。			
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	8	会場装花①	入学式会場装花の花材調達・準備	吉田・林
2	8	会場装花②	入学式会場装花の制作	吉田・林
3	4	花き装飾の歴史と文化	「花き装飾の歴史」と「園芸装飾の歴史」	吉田
4	4	イベントのディスプレイ①	学内会場装飾の花材調達・準備	林・吉田
5	8	イベントのディスプレイ②	学内会場装飾の準備	林・吉田
6	8	イベントのディスプレイ③	学内会場装飾の制作	林・吉田
7	4	ヨーロッパデザイン①	「平行と交差」「共同形態」「材質感を見せる」	長縄
8	4	ヨーロッパデザイン②	「静止と動き」「高く挿された」「材質感を見せる」	長縄
9	4	花き装飾のデザイン①	花の個性と特徴をいかす造形・デザイン理論	林
10	4	花き装飾のデザイン②	「グリーン役割とその効果」「吸水性スポンジを使用しない花留め方法」	吉田
11	4	試験・実技	吸水性スポンジを使用しないアレンジ制作(テーマに基づき各自花材調達)・筆記試験	吉田・林

特記事項	実習にふさわしい服装で受講してください。 花き装飾コース専攻生には強く推奨します。 花材調達のため早朝市場へ行きます。 制作物のメンテナンス・撤去は授業時間外でも行います。
学生へのメッセージ	フローリストとしての発想力や応用力を身に付けましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
2級フラワー装飾技能検定対策実習						○吉田 久美子☆、長縄 律子☆(客員教授)			
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	90	区分	選択	分野	花き装飾
背景と目的	2級フラワー装飾技能検定は生花店で熟練した技術者が有すべき高度技術を習得を目指すための国家検定試験です。本科目は時間制限のあるなかで、3課題7デザインを反復練習することで2級フラワー装飾技能士の取得もしくは、同レベルの技術と知識の習得を目的とする。また、熟練技能者の指導を受けることで、更に高い技術を目指す。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2級フラワー装飾技能検定の合格水準の技術力を習得する。 ・学科試験のためのフラワーデザインに関する知識を習得する。 ・実技試験練習を繰り返すことでフローリストとしての作業所作を習得する。 								
授業外の学習	実習で学んだ技術を復習し身につけておくこと。								
評価方法	取組姿勢(50%)、実技(50%)								
教科書	—								
参考書	『フラワー装飾技能検定試験・実例とポイント』（講談社エディトリアル）								
関連する資格	2級フラワー装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方	3課題7デザインを、花材の入荷と各自の習得スピードに合わせて、個別に指導を行う。			
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	デモンストレーション①	国家試験と課題の概要説明とデモンストレーション（花束・アレンジ）	吉田
2	4	デモンストレーション②	試験の概要説明とデモンストレーション（ウェディングブーケ）	吉田
3	6	実技試験対策実習①	課題1花束(ラウンド花束B)	吉田
4	4	実技試験対策実習②	課題1花束(ラウンド花束A)	吉田
5	4	実技試験対策実習③	課題2アレンジメント(ファン)	吉田
6	4	実技試験対策実習④	課題2アレンジメント(トライアングラー)	吉田
7	4	実技試験対策実習⑤	課題2アレンジメント(ホリゾンタル)	吉田
8	4	実技試験対策実習⑥	課題3ブライダルブーケ(キャスケード)	吉田
9	4	実技試験対策実習⑦	課題3ブライダルブーケ(クレセント)	吉田
10	12	実技対策実習⑧	制限時間内での制作	吉田
11	4	実技対策実習⑨	熟練技能者による指導	長縄
12	16	実技対策実習⑩	制限時間内での制作	吉田
13	4	実技対策実習⑪	熟練技能者による指導	長縄
14	8	実技対策実習⑫	制限時間内での制作	吉田
15	8	学科試験対策実習	フラワー装飾一般・作業方法・植物一般・安全衛生について 過去問題・練習問題	吉田

特記事項	フラワー装飾技能士3級取得者、実務経験2年以上のものは履修・受検可能です。また2級保持者も履修可能です。1年生で履修希望する場合は担当教員と協議し「相互科目履修」を申請し許可を受け、履修することが出来ます。授業内のみでの練習では、合格は難しいです。時間外の練習も必要のため授業外も練習する意欲が必要になります。また花材費約6万円かかりますので良く考えて履修してください。2級フラワー装飾技能検定の成績優秀者は全国技能五輪大会への出場のチャンスがあります。
学生へのメッセージ	2級合格目指しましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
花修景実習Ⅲ						○相田 明、上野 恵☆(非常勤講師)			
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的	「花修景実習Ⅱ」に続き、学内のボーダーガーデン及び学外の花フェスタ記念公園を実習地とするこの実習は、一・二年草や宿根草、さらに樹木の植栽計画・管理の習得を目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公園における花修景の年間管理を理解する。 ・宿根草の芽吹きなど成長過程を観察することにより植物を見分けることができる。 ・ボーダーガーデンの植栽計画及び管理ができる。 								
授業外の学習	季節ごとに咲く花に関心を持ち、写真を撮るなどして変化を観察すること。								
評価方法	取組姿勢(50%)、提出物(50%)								
教科書	『小さくても素敵な花壇づくり』(講談社)								
参考書	『ガーデン植物大図鑑』(講談社)								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方	学内の実習では講義や実習内容の説明をした後(1時間程度)、実習を行う。花フェスタ記念公園の実習ではバスを利用し移動する。			
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	春花壇の管理	一年草、球根などの管理(花フェスタ)	上野
2	4	夏花壇の植栽	一年草などの植栽(花フェスタ)	上野
3	4	ボーダーガーデンの植栽	初夏の宿根草などの植栽(学内)	相田
4	4	夏花壇の管理①	一年草などの植栽管理(花フェスタ)	上野
5	4	ボーダーガーデンの植栽・管理	宿根草などの植栽、管理(学内)	相田
6	4	夏花壇の管理②	植栽管理・補植(花フェスタ)	上野
7	4	秋花壇の植栽	一年草などの植栽(花フェスタ)	上野
8	2	ボーダーガーデンの管理	宿根草などの管理(学内)	相田

特記事項	実習ではハサミ、手袋、帽子、作業しやすい服装が必要。
学生へのメッセージ	ボーダーガーデンは日々変化する庭です。日々管理しなければ、維持することができない庭です。四季の変化のあるボーダーガーデンをつくりましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
造園施工・管理実習Ⅲ						○新井 俊宏☆、佐竹 康太郎☆(非常勤講師)			
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的		「造園施工・管理実習Ⅰ、Ⅱ」で行った実習の一部を再度行い、技術を確実に習得するとともに、卒業制作に向けて必要となる造園技術の習得を目標とする。 施工実習では、これまでの実習で得た技術を生かして、学内外に造園施設を制作する。管理実習では、学内庭園や植物について時期や生育特性に合わせた管理方法について年間を通じた実習をする。							
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・造園植物(樹木、下草、芝生など)の生育特性を踏まえた管理方法を習得する。 ・造園施設(張芝、石積み、園路、景石など)の施工方法を習得する。 ・造園空間の特性を理解する。 							
授業外の学習		<ul style="list-style-type: none"> ・学内造園空間のエリア管理を必要に応じ行うこと。 ・『Landscape Design』、『庭』、『環境緑化新聞』等を読むこと。 							
評価方法		取組姿勢(70%)、提出物(30%)							
教科書		『造園施工必携』(日本造園組合連合会)							
参考書		『造園技術ハンドブック』(誠文堂新光社)							
関連する資格		2級・3級造園技能士、2級造園施工管理技士							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		学内の庭園や植栽地、および学外(花フェスタ記念公園)の実習フィールドにおいて、造園施工作業及び造園管理作業の実習を行う。毎回、実習の内容を野帳に記して翌日提出すること。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	造園管理①	学びの森の管理	新井
2	4	造園管理②	実習フィールド春花壇の管理(学外)	新井
3	8	造園管理③	公園内レストラン周りの春の植栽(学外)	新井
4	4	造園管理④	常緑樹、落葉樹の剪定	佐竹
5	4	造園施工①	自然石野面摘み 地ならし、丁張、石積み	新井
6	4	造園施工②	自然石野面摘み 石積み	新井
7	4	造園施工③	花の地球館屋内庭園 準備	新井
8	4	造園管理⑤	実習フィールド秋花壇の管理(学外)	新井
9	8	造園施工④	公園内レストラン周りの秋の植栽(学外)	新井
10	8	造園施工⑤	花の地球館屋内庭園 工作物設置(学外)	新井
11	8	造園施工⑥	花の地球館屋内庭園 植栽(学外)	新井

特記事項	実習時は作業着、グローブ、保護帽などを着用すること。天候などの理由により実習内容を変更する場合があります。夏期の高温時の実習では、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をすること。
学生へのメッセージ	1年生で学んだ知識や技術を、より確実に身につけられるように取り組んでください。

科 目						担当教員(○主担当)			
造園計画演習						○相田 明、新井 俊宏☆			
授業形態	演習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的	学園祭と花フェスタ記念公園の岐阜県立国際園芸アカデミー実習フィールドで施工する小庭園の設計を行う。「卒業研究・卒業制作Ⅰ」や「造園施工・管理実習Ⅲ」の授業と関連を持たせながら、構想、計画、設計の一連の流れを理解することを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・縮尺の概念と感覚を理解する。 ・発想力、デザイン力、プレゼンテーション力を高めることで造園空間を計画することができる。 								
授業外の学習	積極的にスケッチをすること。								
評価方法	取組姿勢(50%)、提出物(50%)								
教科書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)								
参考書	『ガーデンデザインのプレゼンテクニック』(彰国社)								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方	小庭園の設計は学園祭と花フェスタ記念公園で施工する図面を作成する。			
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	学園祭小庭園の構想	設計作業の流れと基礎調査(現地測量、現況図・計画平面図の作成、構想立案)	相田・新井
2	4	学園祭小庭園の計画・設計	個人案の作成	相田・新井
3	4	学園祭小庭園のプレゼンテーション	各自案の提示、質疑応答・講評	相田・新井
4	4	花フェスタ記念公園実習フィールド小庭園の構想	全体構想(テーマ・コンセプトの設定)、基本構想・基本計画(ゾーニング・動線計画・園路計画など)	相田・新井
5	4	花フェスタ記念公園実習フィールド小庭園の計画・設計①	平面図・立面図・断面図・詳細図	相田・新井
6	4	花フェスタ記念公園実習フィールド小庭園の計画・設計②	イメージスケッチの作成	相田・新井
7	4	花フェスタ記念公園実習フィールド小庭園のプレゼンテーション	各自案の提示、質疑応答・講評	相田・新井
8	2	まとめ	学園祭、花フェスタ記念公園小庭園のまとめ	相田・新井

特記事項	—
学生へのメッセージ	これまで学んだことを生かしながら、設計を進めましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
2級造園技能検定対策実習						○新井 俊宏☆、若尾 光秀☆(非常勤講師)			
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的	造園技能士は、造園に関するさまざまな知識と技能を有するものに与えられる国家資格である。造園技能士は、家庭の庭づくりや維持管理ばかりでなく、大規模な公共工事では現場に参加することが義務づけられている重要な資格である。本科目では2級造園技能検定試験に合格するための知識、技術を習得することを目標とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科試験の合格水準に達する知識を習得する。 ・実技試験の課題制作が、規定時間内に規定の寸法どおりに完成することができる。 ・実技試験の要素試験に出題される樹木を判別することができる。 								
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学科試験対策は希望者に補講を行うが、受講にあたっては各自予習、復習を行うこと。 ・実技試験の練習は授業外にも自主的に行うこと。 								
評価方法	取組姿勢(80%)、実技(20%)								
教科書	『造園実技作業の手引き』(日本造園組合連合会)、『造園技能検定学科試験問題集』(日本造園組合連合会)								
参考書	『2級造園技能検定DVD』(日本造園組合連合会)								
関連する資格	2級・3級造園技能士、2級造園施工管理技士								

☆☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方	7月～8月に検定試験日程に合わせて集中開講する(夏季休業中に実施)。 学科試験対策は、受験の手引きに掲載されている過去問題を解きながら解説を行う。 実技試験の課題制作対策は、練習場において、繰り返し課題を制作して練習する。 実技試験の要素試験対策は、学内の樹木枝を標本木として枝、葉、芽などの特徴を覚える。			
回	時間数	項目	授業内容	担当教員
1	2	試験対策概要	学科・実技試験対策の講義	新井
2	4	実技試験対策①	実技試験課題の練習(竹垣)①	若尾
3	4	実技試験対策②	実技試験課題の練習(竹垣)②	若尾
4	4	実技・学科試験対策	要素試験対策、過去問題による学科試験の出題傾向	新井
5	4	実技試験対策③	実技試験課題の練習(縁石、敷石)	若尾
6	4	実技試験対策④	実技試験課題の練習(制限時間内での練習)①	新井
7	4	実技試験対策⑤	実技試験課題の練習(制限時間内での練習)②	新井
8	4	実技試験対策⑥	実技試験課題の練習(制限時間内での練習)③	新井

特記事項	担当教員と事前に相談の上、「相互科目履修申請書」を提出し、許可を受けた1年生も履修することができる。天候などの理由により実習日程を変更する場合がある。夏期高温時の実習となるため、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をするなど、体調管理を十分にすること。練習場の区画整備は授業時間外で行う。受講者は必ず参加すること。
学生へのメッセージ	国家資格の受検をとおして造園の奥深さや面白さを体感してください。

科 目						担当教員(○主担当)			
商品動向リサーチⅡ						○井上 守☆			
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必修	分野	マーケティング
背景と目的	一般に植物の呼称は和名、学名、英名、品種名、俗名などが錯綜しており、小売店、ガーデンセンターなどの現場において、植物名を正しく扱うことは複雑で難しいと感じている社員が少なくない。そこで、本授業では、「商品動向リサーチⅠ」から引き続き、集大成として年間取り扱い上位300品目の学名や管理方法などを学習し、就職先で頼りにされる存在になることを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・取り扱い上位300品目に学名や管理方法について理解する。 ・MSエクセルにおいて、ピボットテーブル、統計関数などを活用してデータベースを作成できる ・データベースから植物について正しい情報発信ができる。 								
授業外の学習	授業時間外でもリストの植物を常に意識して、生育観察や写真撮影を心掛けておくこと。								
評価方法	試験(100%)								
教科書	『日本花名鑑 4』(アポック社)								
参考書	『学生に役立つEXCEL2013 応用編』(FOM出版)								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方	「商品動向リサーチⅠ」で学習した秋・冬期200品目に続き、春・夏期のみに登場する上位100品目を加えた300品目のリストが渡され、日本ライン花木センターでリストの植物を探し撮影して、MSエクセルにて300品目のデータベースを作成する。最後に300品目について、写真から植物名を同定する確認試験を行う。			
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	データベース作成①	データベースの作成手順	井上
2	4	MSエクセル 実習	ピボットテーブル、統計関数を用いた、データ分析、データ処理	井上
3	4	花木センターでの写真撮影(4月:春の植物)	観葉植物を中心とした春の商品について写真撮影・調査する。	井上
4	2	データベース作成②、植物調べ①	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ	井上
5	4	花木センターでの写真撮影(5月:初夏の植物)	ペラルゴニウム、ペゴニアなど初夏の花物を中心に写真撮影・調査する。	井上
6	4	データベース作成③、植物調べ②	データ入力、画像整理、図鑑による植物調べ	井上
7	4	花木センターでの写真撮影(7月:夏の植物)	夏のギフト商品、和物の鉢物、樹木などを中心に写真撮影・調査する。	井上
8	4	データベース完成	データベースを完成し発信、総括、評価	井上
9	2	試験	写真から植物を同定する試験	井上

特記事項	デジカメ(スマートフォン可)、USBメモリ等が必要
学生へのメッセージ	素晴らしいイベントの企画や商品提案のセンスは、突然頭にひらめくものではありません。実は確かな植物の基本的知識から生まれているのです。一緒に汗を流しましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
キャリアデザインⅡ						○佐藤 智茂☆、今西 良共☆			
授業形態	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必修	分野	マネージメント
背景と目的	人生100年時代を生きる若者は、より長い期間に渡り働くこととなると考えられる。そのことに伴い働き方もこれまで当たり前とされていた形から大きく変化する可能性が指摘されている。「キャリアデザインⅠ」で学び育んだ勤労観や職業観をもとに、家計に関する知識、働く際に必要となる労働や租税(主に所得税)に関する基本的な法律知識、また協働のためのディスカッションスキルを学び、新しい時代を生きる自らの働き方をデザインできるようになることを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭面での具体的な生活設計を理解する。 ・採用試験(面接)への対応を知る。 ・建設的なディスカッションを体感し、協働の必要性を理解する。 ・基本的な労働法、租税法(主に所得税)を理解する。 								
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を読み、社会経済の動静に関心を持つこと。 ・配布した資料をしっかりと読む(読み返す)こと。 								
評価方法	取組姿勢(40%)、提出物(40%)、小テスト(課題レポート)(20%)								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	ライフプラン作成	生活費(1ヶ月)の計画を通して給与を考える	佐藤
2	2	就職活動について①	求人票を見るポイント	佐藤
3	2	就職活動について②	面接試験の流れ、面接のポイント	佐藤
4	2	就職活動について③	前回に続き、面接試験の流れ、面接のポイント	佐藤
5	8	グループ討議(会議)の実践	ディスカッションを通して意思疎通や合意形成などを体感する	佐藤
6	2	新卒社員に関する情報提供	各種統計データの紹介を通し、会社や職業の選択の重要性を知る	佐藤
7	2	労働法①	労働契約と労働条件	佐藤
8	2	労働法②	働き始めた後におかしいと感じたら	佐藤
9	2	給与明細について	給与明細の見方、給与の仕組み	佐藤
10	2	社会保険制度について	給与等にかかる社会保険制度の概要	佐藤
11	2	租税制度(所得税を中心に)	給与等にかかる所得税(源泉徴収・年末調整制度)	佐藤
12	2	学長講義	『私の職業人生』	今西

特記事項	—
学生へのメッセージ	働く人として知っておくべき労働や租税に関する基本的な知識を学び、そして協働感覚を養いましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
起業・経営シミュレーション						○佐藤 智茂☆			
授業形態	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	マネージメント
背景と目的	企業活動とは経営資源を活用し、利潤の最大化を図ることであり、企業へ就職することはこの活動へ参加することでもある。 自らが起業すると想定し、どのように経営資源(ヒト・モノ・カネ)を活かすかという視点で自分なりのビジネスモデルを考えことを通じ、自分にとっての働く意味や意義を考える機会とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経営理念、ビジョンといった『上位概念』の重要性を理解する。 ・マーケティング・財務諸表の基本を理解する。 ・簡単な起業・経営計画書の作成ができる。 								
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を読み、社会経済の動静に関心を持つよう努めること。 ・参考書を一読すること(図書室内で開架) 								
評価方法	取組姿勢(50%)、プレゼンテーション(50%)								
教科書	—								
参考書	『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』(ダイヤモンド社) 『18歳からの経営学』(集英社インターナショナル)								
関連する資格	—								

☆☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	経営学の基礎	ビジネスのあらまし(書籍購読)	佐藤
2	2	基本理論①	組織にとって“目指すもの”の大切さ(経営理念 ①)	佐藤
3	2	基本理論②	働く人にとって“目指すもの”の大切さ(経営理念 ②)	佐藤
4	2	基本理論③	企業の組織に関する基本的知識	佐藤
5	2	計画書作成①	第2回～第4回講義部分の“起業・経営計画書”を作成	佐藤
6	2	基本理論④	マーケティング(顧客)	佐藤
7	2	基本理論⑤	マーケティング(セグメンテーション→ターゲティング)	佐藤
8	2	基本理論⑥	マーケティング(4P・AIDMA)	佐藤
9	2	計画書作成②	第6回～第8回講義部分の“起業・経営計画書”を作成	佐藤
10	2	基本理論⑦	経営資源としての“カネ”を考える	佐藤
11	2	基本理論⑧	財務会計(損益計算書)	佐藤
12	2	基本理論⑨	財務会計(貸借対照表)	佐藤
13	2	予想損益計算書作成	第10回～第12回講義を基に“予想損益計算書”を作成	佐藤
14	2	計画書作成③	これまでに作成した“起業・経営計画書”を再確認し、1つにまとめる	佐藤
15	2	プレゼンテーション	各自の起業経営計画書の発表	佐藤

特記事項	受講者の理解度を勘案し、授業内容・進捗を変更することがある
学生へのメッセージ	授業タイトルに“起業・経営”とありますが、働く人すべてに関係ある学習内容であると考えます。興味を持った学生はぜひ受講してください。

科 目					担当教員(○主担当)				
園芸文化研修					○今西 良共☆、武田 純☆(客員教授)、鹿野 陽子☆(客員教授)、加藤 友規☆(非常勤講師)、小笠原 誓☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	文化・利用
背景と目的		人は植物を観ること、食すること、活用することを通じて自らの生活・環境をより豊かなものにしてきた長い歴史があり、私たちと植物、引いては園芸・造園は切っても切れない強い結びつきがある。 この授業では、歴史・文化の一大集積地である京都を訪ね、日本の園芸・造園の歴史を体現している都市公園や文化財庭園などを視察し、伝統文化に対する見聞を広げ、考察を深める。							
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の園芸・庭園文化を体感し、自らの見識を養い理解する。 ・これまでに学んできた「花と緑」に関する知識や技能と園芸文化との繋がりを理解する。 ・園芸・造園の社会的意義を知り、長い歴史に培われて来た文化的景観を理解する。 							
授業外の学習		配布資料を通読し、必要に応じ各自にて事前または事後の予備学習を行うこと。 視察先ごとにレポートとしてまとめておくこと。							
評価方法		取組姿勢(20%)、レポート(80%)、							
教科書		—							
参考書		—							
関連する資格		—							

☆☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		京都視察研修は8月(夏季休暇中)に集中授業(2泊3日)として実施予定である。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	江戸の園芸文化	江戸時代の資料を見ながら当時の園芸文化を知る	小笠原
2	2	京都の庭園文化	南禅寺、無鄰菴、對龍山荘、天竜寺など	今西
3	2	花版「世界ふれあい街歩き」	ヨーロッパ、北アメリカ、東南アジア、オセアニアの各地の花文化	小笠原
4	8	京都視察研修(1日目)	①講義:造園の思想と技法 ②視察:梅小路公園(朱雀の庭を主に)	今西・武田
5	8	京都視察研修(2日目)	視察:南禅寺、無鄰菴、對龍山荘 等	今西・加藤
6	8	京都視察研修(3日目)	視察:天龍寺庭園及び嵐山公園界限(文化財庭園・景観)	今西・武田・鹿野
特記事項		京都研修における移動交通手段は本学マイクロバスを利用する予定である。 京都研修時の服装や行動等、団体行動であるため指導教員の指示に従う必要がある。 視察先は、諸事情により変更になることがある。		
学生へのメッセージ		『千年の都』とも称される京都の文化財庭園・都市公園・文化的景観を訪ね、そして観ることを通じて日本の園芸文化を肌で感じ、学んでください。		

科 目						担当教員(○主担当)			
植物管理基礎実習Ⅲ						○前田 宝秀、臼田 浩通、吉田 久美子☆、林 誠☆、 相田 明、新井 俊宏☆、井上 守☆、佐藤 智茂☆			
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必修	分野	植物管理
背景と目的	生産・装飾・造園の各分野において、四季を通じて植物を管理するための知識および技術は必ず習得すべきものである。また、習得した知識・技術を他人に伝える能力は、社会で働く上で重要である。本科目では、「植物管理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」を通じて1年間学んできた植物管理知識、技術、経験を1年生に伝えることで、自分自身のレベルを再確認するとともに、どのように相手に対して自分が持っている知識、技術、経験を伝えれば良いのかを学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・春・夏期における植物の種類による管理方法の違いを理解する。 ・春・夏期における灌水技術を習得する。 ・春・夏期における温室の管理技術を習得する。 ・上記の知識・技術を他者に伝達する能力を身に付ける。 								
授業外の学習	実習前に、当日および翌日の天気予報を必ず確認すること。実習後に週間レポート用紙に当日の気温、天気、実習内容、1年生への指導内容等を記入すること。								
評価方法	取組姿勢(80%)、レポート(20%)								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方	原則1週間(水曜日～翌週火曜日)を単位として管理実習を行う。学生の班編制を行い、半期の計画を作成して実習を行う。学生の班編制は、季節の作業内容や管理するエリア等を考慮して人数を決める。原則として1年生1名に対して2年生1名が組み、担当教員が植物管理について指導を行う。			
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	8	植物の種類と管理	植物の種類に応じた管理方法	週担当教員
2	8	土壌と灌水①	土壌の性質と水管理	週担当教員
3	8	土壌と灌水②	自動灌水と手灌水による管理技術	週担当教員
4	8	植物の生長・開花①	環境(温度・光・水・風)の変化による植物の生長の違い	週担当教員
5	8	植物の生長・開花②	植物の特性に応じた環境調節(遮光、保温、暖房等)技術	週担当教員
6	8	植物の総合管理	花殻摘み・除草などの植物維持管理技術を習得し、また、病害虫の生態について	週担当教員
7	8	1年生への指導	植物管理について習得した知識、技術の1年生に対する伝達、指導	週担当教員
8	2	春・夏期の植物管理方法	春・夏期の各エリアの植物管理方法(講義)	前田・吉田・新井・佐藤
9	2	エリア整備	各エリアの整備を通じた環境美化意識の向上	各エリア担当教員

特記事項	半期の計画に基づき、おおむね1週間の実習を複数回行う。実習時間は原則として、朝8時から8時45分、夕方16時35分から17時5分までとする。祝日および長期休暇期間中も行う。
学生へのメッセージ	「植物管理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」を通じて身に付けた植物管理についての知識、技術を再確認すると同時に、1年生への管理指導を行うことでさらなるスキルアップを目指して下さい。

科 目						担当教員(○主担当)			
海外視察研修						○臼田 浩通、井上 守☆、吉田 久美子☆、相田 明、各コース担当教員			
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	90	区分	必修	分野	国際性
背景と目的		グローバル化の流れは園芸業界にも押し寄せ、もはや好むと好まざるに関わらずに対応してゆかねばならない。そこで、世界最大規模のチェルシーフラワーショウの開催に合わせて英国を訪問し、最新のフラワーデザインやガーデン展示と花き関連施設を視察し、国際都市ロンドンの園芸産業の動向を理解する。また、ロンドンやコッツウォル地方の伝統的な有名庭園めぐり、イングリッシュガーデンの普遍的な魅力を理解することで、園芸の新、旧の魅力を融合して、園芸に関する理解を深めると共に国際感覚を養う。							
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・チェルシーフラワーショウ及び国際都市ロンドンで、フラワー、ガーデンの最新のデザインを知る。 ・英国の有名庭園を知る。 ・英国の花き流通施設を知る。 ・海外体験を通して国際感覚を養う。 							
授業外の学習		イギリスに関するニュースに興味を持ち、特に園芸関係に関する情報については、必要に応じて留め置くこと。							
評価方法		取組姿勢(引率教員40%、コース教員30%)、報告会(30%)							
教科書		—							
参考書		—							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		視察は7泊9日でコッツウォルズ3泊、ロンドン4泊。5月19日～5月27日を予定。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	ガイダンス	概要説明	臼田
2	2	事前研修①	旅の心得、ロンドン市内、キューガーデン、ウィズリーガーデン	井上
3	2	事前研修②	英国園芸の歴史とその特徴	相田
4	2	事前研修③	ヨーロッパのフラワーデザイン	吉田
5	2	事前研修④	研究テーマ設定	各コース担当教員
6	64	海外研修	<コッツウォルズ地区> ボートンオンザウォーター ヒドコートマナーガーデン、キフツゲートコートガーデン バイブリー、スードリー城 プレナム宮殿 <ロンドン地区> フLOWERビジョン キューガーデン、ウィズリーガーデン チェルシーフラワーショウ グレートディクスターガーデン、シシングハーストカースルガーデン <班別テーマ視察> 各自のテーマで視察	臼田
7	8	報告会準備	報告会で使用する資料作成	各コース担当教員
8	8	海外視察研修報告会	個別テーマについて報告	各コース担当教員

特記事項	諸事情により海外視察研修に参加できない場合は、担当教員と相談のうえ、国内研修に振り替えることができる。また、渡航先の諸事情により、視察先が変更となる場合がある。
学生へのメッセージ	チェルシーフラワーショウが開催される5月後半は、園芸業界は繁忙期で一度就職してしまうと、なかなか見に行くチャンスはありません。若いうちにチェルシーを見て刺激を受ける事ができるのは学生の特権といえます。

科 目						担当教員(○主担当)			
職場体験実習Ⅱ						○各コース担当教員			
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択	分野	就業体験
背景と目的	新卒者の3年内離職率は過去平均して40%程度で推移しており、就業後のミスマッチが発生していると考えられる。本科目では学生が受入先企業・団体等で「実際に職務を遂行するための姿勢や態度」を実践することで、今後の職業・企業選択に活かし、また授業への動機付けとなることを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として働くに当たっての心構え、マナーを習得する。 ・受入先企業・団体等の全般的な仕事内容に関して、体験に基づいた知見を習得する。 								
授業外の学習	返却された『日報』をしっかりと通読する時間を設け、自らの体験学習を振り返ること。								
評価方法	受入先企業評価(50%)、日報及び報告書(50%)								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		①担当教員と十分な事前相談→②受入先企業・団体等の指導下で7日間の就業体験→③報告書作成		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	事前準備	受入先企業・団体や従事期間の相談	各コース担当教員
2	56	インターンシップ実施(7日間)	受入先企業・団体等での業務に従事(実習)	各コース担当教員
3	2	報告書作成	提出する報告書の作成について	各コース担当教員

特記事項	受入先企業・団体等の選定や事前の準備など、専攻するコースの教員と十分に相談を行うこと。「業務従事中は受入先企業等の一員である」意識を持ち、ビジネスマナーに留意すること。また実習時の怪我や器物の破損など、事故のないよう十分に注意すること。
学生へのメッセージ	選択授業ですので「職場体験実習Ⅰ」以上に自分なりのテーマを持ち、就職を検討している業界・業種・企業の仕事を学び、今後の学習への動機付けとしてください。

科 目						担当教員(○主担当)			
造園工学・施工論						○新井 俊宏☆、日比 真一☆(非常勤講師)			
授業形態	講義	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的	建設業法で定められている造園工事業では、その専門性に精通している造園施工管理技士の資格を有した人材が必要とされている。造園施工管理技士学科試験合格のためには幅広い出題範囲をカバーした受験対策が必要となる。本科目では造園施工管理技士2級学科試験に合格する水準の知識習得を目指す。								
到達目標	・2級造園施工管理検定の学科試験に合格する水準の知識を習得する。								
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で予習を行うこと。 ・各授業で学んだことをノートに整理すること。 ・過去問題を解き、自分の苦手とする項目を重点的に学習すること。 								
評価方法	取組姿勢(80%)、筆記試験(20%)								
教科書	『2級造園施工管理試験』(オーム社)								
参考書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)								
関連する資格	2級造園施工管理技士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方	10月末～11月中旬に集中開講する。 学科試験対策は、過去問題を解きながら、ポイントの解説を行う。 施工管理現場の視察を行うとともに、卒業後に受ける実地試験対策についても講義を実施する。			
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	施工管理の職能について	資格と実務	日比
2	4	造園材料	石材、木材、セメント、タイル、レンガ、植物材料(樹木、一年草、宿根草、球根)等	新井
3	4	土壌と肥料、植生、植栽計画、移植工、植栽工	土壌、肥料、植生、調査と計画、植栽施工準備、移植の条件と方法、植栽時期と施工	新井
4	4	植栽管理、公園施設	整姿剪定、病害虫、遊戯施設、屋外運動施設等	新井
5	4	土工、コンクリート工、舗装工、擁壁工	盛土と切土・土量の配分・建設機械と施工能力等、コンクリートの施工と品質管理・アスファルト舗装・鉄筋コンクリート擁壁等	新井
6	4	建築工事、設計・測量、設備関連工事	木造建築・茶室・測量・設計図書等、建築工事・電気工事・給水工事・排水工事	新井
7	4	安全衛生、施工及び施工管理関連法令、最近の試験動向について	安全衛生に関する法令・施工及び施工管理に関連する法令	新井
8	2	最近の試験動向について	学科試験・実地試験経験記述	日比
9	2	試験	筆記試験	新井

特記事項	申し込みは7月中旬～7月下旬、試験日11月中旬、合格発表は1月中旬である。 在学中は学科試験のみ受験可能である。実地試験は実務経験年数2年以上で受験可能となる。
学生へのメッセージ	造園施工管理技士は、造園施工管理会社、公園管理団体、公務員などの職場で必要となる資格なので、造園分野への就職希望者には学科試験の受験を薦めます。

科 目						担当教員(○主担当)			
公園・緑化概論						○今西 良共☆			
授業形態	講義	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的	新たな時代に対応する都市公園の管理運営業務を総括的に計画、実行するマネジメント能力を備えた人材が求められています。そのため都市公園・都市緑化に関する基本知識、幅広い意識とビジョンの涵養および最新の知識の習得を図るものです。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園・都市緑化に関する基本法令、制度についての基礎知識を習得する。 ・都市環境の改善及び都市の防災性の向上等、今日の都市が直面している課題の解決に資する都市公園・緑化のあり方、都市公園における適切な維持管理等について知識や知見を習得する。 								
授業外の学習	公園や街路樹など日常的に関心を持って観察し、写真などに記録すること。								
評価方法	取組姿勢(20%)、筆記試験(80%)								
教科書	—								
参考書	『公園管理ガイドブック改訂版—公園管理運営のための必携書』（一般社団法人 公園財団）								
関連する資格	公園管理運営士、2級造園施工管理技士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	緑の機能と役割	公園とは、緑地とは、公園緑地行政の歩みと概要	今西
2	2	緑に係る施策と制度の体系	緑の施策体系、緑の制度の体系、緑の基本計画	今西
3	2	緑に関わる法令	都市公園法、都市緑地法など	今西
4	2	緑の保全と緑化の推進	施策・事業	今西
5	2	公園緑地の整備	施策・事業	今西
6	2	公園緑地の管理運営①	維持管理	今西
7	2	公園緑地の管理運営②	運営管理、市民協働、指定管理者制度	今西
8	8	現場視察研修	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理の公園(鶴舞公園) ・民間活力導入の施設(名城公園・久屋大通公園) ・民間都市開発による緑化(名駅周辺) 	今西
9	2	公園緑地の管理運営③	公園経営とこれからの公園緑地	今西
10	2	道路空間緑化①	道路における緑への期待、街路樹の変遷、街路樹の現況	今西
11	2	道路空間緑化②	道路における法規制等、道路空間の計画と設計、維持管理	今西
12	2	試験	筆記試験	今西

特記事項	視察先は変更する場合がある。
学生へのメッセージ	将来、公園緑地の現場で実務責任者として必要な知識を幅広く身に付けましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
SNSプロモーション						○井上 守☆			
授業形態	実習	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	分野	マーケティング
背景と目的	SNS(ソーシャルネットワークサービス)の普及により、誰もが簡単に情報の入手・発信ができる時代となってきている。今では企業のSNSによる商品の情報発信は、必要不可欠な営業戦略となっている。本講義では、YouTubeによる情報発信を、動画の編集からアップロードまでの実践を通して、SNSにおけるプロモーションを学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTubeの仕組みを理解する ・SNSのリスクを知る ・Adobe Premiereまたはビデオエディターを使って動画編集できる ・YouTubeにプロモーション動画をアップロードできる。 ・クリエイターツールによるアクセス解析ができる 								
授業外の学習	興味のある圏芸関係のYouTubeの動画を見ておくこと。								
評価方法	取組姿勢(50%)、制作物(50%)								
教科書	資料を配布								
参考書	『YouTube完全マニュアル』(秀和システム)								
関連する資格	—								

☆☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方	受講者はアカデミーで学んだ知識や技能を情報発信する動画を作成し、youtubeにアップロードして、その発表会を行う。			
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	SNSとは	SNSの利用とそのリスク	井上
2	4	YouTubeのできる事	YouTubeのサービスの内容とコンテンツと著作権	井上
3	4	YouTube事例研究①	動画が配信される仕組み	井上
4	4	YouTube事例研究②	企業におけるYouTubeの活用例を研究	井上
5	4	先進事例視察	花のYouTuber尾関純子氏(花創人ガーデニング教室 代表)のスタジオを訪問	井上
6	4	動画編集、制作	各自において動画撮影、編集	井上
7	4	YouTubeの広告とアクセス解析	動画撮影、Adobe Premiere、ビデオエディターによる動画編集	井上
8	4	発表会	(タイトル、説明文、タグの設定、BGM、企業ロゴを入れる、字幕の挿入、映像効果等)	井上

特記事項	—
学生へのメッセージ	11月から短期集中で実施します。この時期までには、アカデミーで多くの知識、技術を習得していることでしょう。次は、それを発信する番です。

科 目						担当教員(○主担当)			
職場体験実習Ⅲ						○各コース担当教員			
授業形態	実習	開講時期	2年後期	時間数	150	区分	必修	分野	就業体験
背景と目的	新卒者の3年内離職率は過去平均して40%程度で推移しており、就業後のミスマッチが発生していると考えられる。本科目では学生が「職場体験実習Ⅰ・Ⅱ」を踏まえ「仕事に臨む姿勢や態度」を十分に実践できるようになることを目指す。また就職・企業選択など今後の進路選択活動を円滑に行うための、そして今後の授業を自分の学習課題の解決の場と捉えるための契機とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究・卒業制作等今後の学習活動の課題を知る。 働くことへの心構えを習得し、マナーを実践できる。 受入先企業の事業活動・概要を理解する。*就職内定(検討)先で実施する場合 								
授業外の学習	返却された『日報』をしっかりと通読する時間を設け、自らの体験学習を振り返ること。								
評価方法	受入先企業評価(40%)、日報(40%)、報告会(20%)								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		①担当教員と十分な事前相談→②受入先企業・団体等の指導下で15日間の就業体験→③報告会へ向けての振り返りと資料作り→④報告会で発表		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	事前準備	受け入れ先企業の検討等詳細を相談	各コース担当教員
2	120	インターンシップ実施(15日間)	受入先企業・団体等での業務に従事(実習)	各コース担当教員
3	12	報告会準備	報告会で使用する資料作成	各コース担当教員
4	8	報告会	プレゼンテーション形式による発表	各コース担当教員
5	8	報告会出席	インターンシップⅠ報告会へ参加	各コース担当教員

特記事項	受入先企業・団体等の選定や事前の準備など、専攻するコースの教員と十分に相談を行うこと。「業務従事中は受入先企業等の一員である」意識を持ち、ビジネスマナーに留意すること。また実習時の怪我や器物の破損など、事故のないよう十分に注意すること。
学生へのメッセージ	これまでに学び得たスキルを活かしながら「現場で必要とされる人になるには、残りの学生生活で何を学ぶべきか」を自問自答する契機としてこの授業へ臨んでください。